

イーハトーブ

関西岩手県人会報 第12号

2009年2月18日発行

関西岩手県人会

〒530-0001 大阪市北区梅田1丁目3番1-900

大阪駅前第1ビル9階 岩手県大阪事務所内

Tel & Fax 06-6344-5969

発行代表者 堯律子

編集代表者 松坂定徳

2009年新春懇親会なごやかに！

1月25日(日)大阪梅田のアサヒビアホール(スーパードライ梅田)で午後1時から関西岩手県人会の「新春懇親会」が行われた。当日は大阪でも小雪が舞い落ちる寒い日になりましたが、予約された以上の人数が集り楽しい新春懇親会になった。

今年も岩手県を代表して総務部総務室長の菊池俊夫様、医師確保対策室長の尾形盛幸様、同室の宮昌隆主任主査を迎えて賑やかに開催された。

司会は鎌田副会長の軽快な挨拶で開幕し、堯会長の新年の挨拶。会員各位が揃って新年を迎えられたことを先ずお祝いし、遙々岩手県から関西岩手県人会の新春懇親会のためにご臨席戴いた菊池室長、尾形室長にお礼の言葉を申し述べ、昨年末から厳しい経済環境の中にあって会員の皆様と手を携えて和やかな県人会を築いて行きたいと新年の挨拶があった。



続いて菊池室長の祝辞挨拶と達増知事から託された祝辞を代読(別掲載)の後、柏山副会長が乾杯の挨拶の中で、新聞の報道によれば全国学力テストでは岩手県が全国の第5位にあり、岩手の子供達は頑張っているので将来が楽しみであると紹介した。

祝辞:菊池俊夫総務室長

会場からは喜びと感動のどよめきが湧き上った。全員がコップにビールを注ぎ乾杯の音頭で声高らかの乾杯を唱和して拍手が鳴り渡った。

テーブルには刺身・肉料理等が数々並び、ビール・日本酒・焼酎・ワイン・ウーロン茶・オレンジジュースが飲み放題とあって、それぞれが好みに合わせて注文し談笑している中で、尾形室長の県政の報告と挨拶(別掲)があった。司会の判断でマイクを解放し、カラオケタイムとなり県人会自慢の歌手が次々と壇上に上り思い思いの歌で自慢の喉を披露したり、合唱したり賑やかな時間を過した。途中で事務局が肝

煎りで集めた品々を抽選によって配布された。1年振りでお会いする人、暫く振りで話す人、初めて声を交わす人、飲んだ勢いで話す人など様々であるが、会場は談笑の渦に巻き込まれ、友を呼ぶ声もかき消されていた。午後4時で会場を明け渡す時間が近付き、松坂副会長の中締めの挨拶があり、菊池室長、尾形室長を拍手で見送りした後、次の機会にお会いしましょうと名残り惜しそうに三々五々帰途に付いた。

松坂記

(当日の出席者)

青柳信雄、安藤恵子、伊藤昭、五十嵐みゆき、池田希和夫、大釜範之、小笠原茂則、岡田公子、奥玉栄三、奥玉登美子、奥村昭吾、小野寺正芳、小原浩二、小原重、小山田星子、押切繁、柏山喬、加藤文雄、鎌田龍児、川上康子、川上巖、神原京子、菊池敏博、菊池清人、菊池ジョウ子、熊谷克巳、熊谷朋子、工藤国雄、小瀬川操一、小山綾子、金野衛、斎藤暁、佐藤隆、佐藤五郎、島信子、鈴木善行、鈴木綾子、鈴木政人、堯律子、高橋清紀、多賀谷真吾、千葉本、千葉紀美代、野館桃鹿、濱本昌範、日澤修、平田一子、平澤政敏、深田稔、藤井勝、藤原勉、藤原照雄、松坂定徳、松本泰州、溝井まさ、村岡信明、村上サダ子、村上忠夫、村上裕子、八重樫善幸、八幡勝栄、山田英子、吉田真二、和田浩、

達増知事祝辞

新年明けましておめでとうございます。
平成21年度関西岩手県人会新春懇親会が開催されるに当たり、ご挨拶を申し上げます。



県人会の皆様には、日頃から県産品の普及、観光宣伝など、県政のあらゆる分野にわたり、多大のご理解、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

昨年は、平泉の世界遺産登録延期、岩手、宮城内陸地震、岩手北部を震源とする地震が強く印象に残っているところですが、この2度の大地震の被害を乗り越え、元気な岩手を全国に発信する「がんばろう！岩手」の運動を県民一丸と

なって展開し、復旧、復興に取り組んでいるところです。また、平泉の世界遺産登録については、皆様からの応援をいただきながら、2年後の夏ごろの世界遺産登録を目指しております。平泉と同様に本県で守り継がれてきた花巻市大迫町の「早池峰神楽」が文化の価値を認められ、ユネスコの無形文化遺産の候補になり、今年9月にアラブ首長国連邦で開催される会議において、登録が確実視されているところであります。

一方、依然として低迷する県民所得、厳しさをます雇用環境、深刻な医師不足など、県民生活は様々な危機に直面していると認識しております。

私は、こうした状況のもと、産業の活性化や地域の文化・歴史を生かした県土の発展を機軸に据え、すべての県民が共に生きる「希望王国岩手」の確立に向けて、全力を傾注して取り組んでいるところであります。

特に、厳しい雇用環境に対応するため、岩手県緊急雇用対策本部を立ち上げるとともに、1月5日に雇用対策・労働室を設置して、関係部局が一体となって岩手らしい総合的な雇用対策を強力に推進しているところです。

60年前の元旦に、高村光太郎は「岩手の人、沈深牛の如し」という詩を、岩手日報に寄稿しました。今年は丑年であり、岩手の年であると思っております。

今後とも、県人会の皆様には、ふるさと岩手の発展のため、絶大なるご支援、ご協力をお願い申し上げます。

新しい年が、関西岩手県人会並びに会員の皆様にとりまして、実り多き年となりますようお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

岩手県知事 達増拓也

岩手県医師確保対策室長 尾形盛幸さま挨拶

関西岩手県人会の皆様、明けましておめでとうございます。岩手県医師確保対策室長の尾形です。今年もお伺いさせていただきました。

岩手県は、日本一、県立病院の多い県です。病院22、診療所5、計27の医療機関を持ち、広い県土の地域医療を担っています。皆様のご出身地を思い出してみると、必ず、近くの大きな病院と言えば、岩手県立病院を思い浮かべることと思います。

私どもは、この多くの県立病院や市町村立病院・診療所に勤務する医師招聘のために、平成18年9月に医師確保対策室を立ち上げて、県外の医師招聘活動を行ってきました。これまでの2年4ヶ月ほどの間に、約900名の医師や医学生を個別訪問し、岩手県の地域医療の状況をご説明しながら情報収集活動を行っております。

また、全国各地の岩手県人会に出席し、ご出席の皆様から医師情報の提供をいただきながら、医師の招聘活動を行っております。お蔭様で今年度5名、室開設以来では15名の医師を招聘するとともに、来年度におきましても、今年以上の医師が岩手に来ていただける予定です。しかしながら医師不足・病院の勤務医不足はなお厳しい状況が続いておりますし、特に県北・沿岸部の医師不足が深刻な状況です。関西岩手県人会の皆様には、是非、ご家族、ご親戚、お知り合いの方で、医師または医学生の方がおられましたら、私どもへ情報をご提供いただきますようお願い申し上げます。全国、どこにでも参りまして、説明させていただきます。

また、本日私のほかに、医師確保対策室から宮主任主査も出席させていただいております。後ほど、皆様のテーブルを回り、ご挨拶をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

関西岩手県人会の益々のご発展と、ご出席の皆様のご健勝を祈念致しましてご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。





第15回阿豆流為・母禮の碑法要実施

去る11月8日(土)、京都清水寺に阿豆流為・母禮の碑が建立されてから15回目の法要が行われた。当日は、あいにくの雨模様でありアテルイ・モレの碑が建立されている南苑での法要は出来なかつたが、大講堂の円通殿に式場を移し阿豆流為 母禮の位牌を供えて、清水寺森清範貫主の導師の下に大西眞興執事長・森孝忍法務部長・松本松圓祿事・森清顕祿事・大西英玄師・大西皓久師・大西晶允師の各和尚様が出席されて大法要が行われた。

今年もアテルイ・モレの郷里である奥州市から相原市長、アテルイを顕彰する会の及川洵会長、延暦八年の会の佐藤秀昭会長、胆江日日新聞社佐々木隆男社長、同新聞社安彦公一編集長を含め27名が出席され、東京から穀田恵二衆議院議員・元岩手県副知事の濱田明正氏ほか5名、主催の関西アテルイ・モレの会と関西岩手県人会から32名が参列した。法要後には和尚さんと一緒に記念写真を撮影して参加者全員に配布した。今年の特別拝観は、「西国三十三ヶ所結縁御開帳」(花山法皇一千年大遠忌)によって清水寺の観音様も御開帳していたので、これを拝観させて頂くことにした。法要終了後、加藤学芸員から清水寺の観音様の特徴など詳しく説明を受けた後に本堂内陣の拝観券を頂戴して拝観させて戴いた。

洗心洞に集合し和賀事務局長の司会で懇親会を開催した。懇親会に先立ち森貫主の法話を拝聴したが、今回は清水観音様を参拝した者の功德についての法話であった。その概要是次の通り。

「今年は花山法皇の大遠忌に当たり、各寺院には夫々の事情があり、清水寺・森清範貫主困難もあったが兎に角、足並みを揃えて「西国三十三ヶ所の観音様の御開帳」をやることになりました。清水寺も33年に1度のご開帳を平成12年に行った所であるが、今回の平成20年にも御開帳をすることにした。今回の拝観機会を逃しますと次回は平成45年であります。会場を見渡しますと25年後のご開帳にはお目に懸かれる方が私を含め少ないよう思います。(会場から笑い)今日お集まり下さいました方々は坂上田村麻呂と阿豆流為・母禮の関係で深い仏縁を結んで居られる方々です。

仏法では人間の生死を4つに分けています。1、生有=生れる。2、本有=生きている。3、死有=死亡する。4、中有=中陰=四十九日。49日間で生きていた時の善行が幾らあったか。悪いことをしていなかったかを裁判をする。四十九日が終ると、あの世での裁判の結果が行われる。裁判長は閻魔大王である。現世において善を施したか悪いことをしていないか。嘘を言うと全てを写出される鏡がある。この場を無事に通して頂く為に現世の人達はお坊さんを呼んでお経を上げて頂く。善の修業をして頂く、即ち、追善供養である。



閻魔さんが生前西国三十三ヶ所のお参りをしたか?清水寺の観音様にお参りしたか?と訊ねられたら、胸を張って「ハイ」と答えて下さい。昨日あの世に電話して置きましたから(会場爆笑)。ハイと答えると安全な道に通して頂ける筈でございます。人生の有難さは今日を生きていること。人として生れた有難さ。仏法によって無量の大きさと万物の力によって生かされているのです。

本日はアテルイ・モレの法要にお参り頂き有難うございます。来年もお参り頂けることをお待ち致します。来年は水沢の羽黒山でも法要をされると伺いましたので参列させて戴きたいと考えています。有難うございました。」

森貫主の法話の後、松坂会長の挨拶、相原奥州市長の祝辞、穀田衆議院議員の祝辞、及川アテルイを顕彰する会会長の祝辞を頂き、小瀬川相談役の音頭で乾杯し、和やかな懇親会を開催した。



(県人会関係者の参加者)

安倍寿明、伊藤昭、及川光夫、柏山喬・瑞代、加藤文雄、鎌田龍児、菊地武利、熊谷克巳、小瀬川操一・美代子、小林正治、佐藤耕吉、佐藤征夫、島忠征・信子、菅洋子、菅原文雄、鈴木綾子、田川康吾・光子、堯律子、高橋正吾、高橋清紀、刀根正先、平澤政敏、深田稔、藤井勝、藤原照雄、松坂定徳、村上忠夫、和賀亮太郎。

関西奥州会懇親旅行

関西奥州会では昨年11月29日、第1回の懇親旅行を行いました。行き先は京都太秦広隆寺と嵐山天竜寺、案内と解説は森口会長。当日午前10時半、京都四条大宮駅前に、及川事務局長デザインの会旗を目印に14名が集合、嵐電で最初の目的地広隆寺に向かいました。現地でこの寺が京都最古の寺であること、渡来人の秦氏と平安京の関係などレクチャーを受け、靈宝殿では有名な弥勒半跏像を始め十二神将像、阿弥陀像など、国宝・重要文化財群の意味と見所の説明があり、綺麗な佇まいの境内とあわせて、あらためて京都文化の奥の深さを認識しました。続いて向かった嵐山では、紅葉の真っ盛りということでどこも人が溢れ、どの食堂も人の列というありさまでしたが、事業担当の佐藤氏の手配によりゆっくり昼食、その後渡月橋や周辺の景観にふれながら臨済宗天竜寺に入山。天竜寺は、後醍醐天皇の菩提

を弔うため、足利尊氏が夢想国師を開山として建てた寺。現在の伽藍の大半は明治期の再建であるが、造園の名人でもあった夢想国師設計の庭園や、嵐山を借景とした広大な寺域を埋める紅葉を堪能でき、錦秋の洛西の古寺と名勝にふれながら会員の懇親を深めた有意義な一日でした。

柏山記



森口会長の名解説に聞き入る：広隆寺にて

氣仙の伝承物語「鮭の大助」その2

松坂定徳

大鷺の襲来

春になると子牛が生れ、若草を喰わせるために山裾に放牧するのだが、牧野に連れて行くと、毎年何頭かの子牛が行方不明になる。この原因を突き止めようと松野家の人は苦慮し、思案していた。

今年こそは子牛の行方を突き止めようと、松野家の主人「俊良坊」が子牛の皮を被って牧野に横たわっていた。暫く時が経つて、うとうとしていた時、急に大きな羽音がして目が覚めた。そのとき体がふわっと宙に浮くのを感じた。

自由が利かない体勢のままで現在の状況を推測すると、大きな鷺の足で捕えられ、天高く運ばれて行くのを感じた。

これは大変なことになった、と思いながらも身動き一つできない。窮屈で苦しい体勢のまま、恐る恐る外の様子を覗いて見ると、そこは碧海の真っ只中の上空であり、陸地も島影も見えない遙か遠くの洋上を飛んでいる気配であった。

これはえらいことになった。と思いながらも対策のしようがない。半ば諦めながら大鷺の飛んでいく目的に運を任せる以外に方法が無いと覚悟を決めていた。

暫くすると、ずずずと音がして何処かに引っ掛って停まる気配を感じた。じっと息を凝らして我慢していると、大鷺が羽ばたきして、どこかに飛び去って行くのを感じた。

十、屋号「羽縄」の由来

これは幸いと、子牛の皮からそっと抜け出して辺りを見回すと、何とそこは六畳ほどもある大きな鷺の巣の中であった。孤島の太い大きな松の樹の上に置かれていた。

とにかく大鷺の巣の外に出なければならない。と考えたが大樹の頂上であり、枝と枝との間隔が広く、素手では到底巣

の外に出ることが出来ない。周りを見ると巣の中には大量の動物の毛や鳥の羽根がたくさん堆積していた。

そうだ、此處に有る鳥の羽根で縄を縫って外に出ようと考え、手当たり次第の羽根や動物の毛、藁屑類を混ぜて縄を縫ってみた。思い通りの縄ではなかったが、どうにか縄の代用品らしいものが出来た。その縄を松の木の枝に括り付け、一枝一枝を慎重に渡り、縄を結び替えては次の枝へと移り、次から次へと結び変えながら、どうにか地上に降り立つことが出来た。

鷺の巣の中にある「羽」で「縄」を縫ったことから、「羽縄=はなわ」の屋号が生れた、と伝えている。

十一、白髪の老人

島に降り立っては見たものの、海と孤島の他に島影も見えない。どうすることも出来ないまま暗くなれば眠り、朝になれば目覚め、遠くの海をぼんやりと眺める毎日であった。

幾十日が経ったのであろうか。

朦朧とした頭で、遙か遠くを何気なく眺めていると、遙か遠くに白波が見えた。波間に消えたり、現れたりしながら、白波が近づいているように見える。白波と共に何物かが此方に近寄って来るのを感じていた。不思議な現象に目を凝らして見ていると、どんどん近寄って来る。

暫く見ていると、急に近寄る気配を感じた途端に、「白衣を着て杖を持った白髪の老人」が目の前に現れた。「そなたはどうして此處に居るのか」と訊ねるので、今までの事柄を詳しく説明して郷里の竹駒邑に帰ることが出来なくて困っていると正直に話した。

十二、鮭の大助

すると白髪の老人は「実は僕も困っていることがある。僕の悩みを聞き届けてくれるならば、貴方を竹駒の里までお送りしてあげましょう」と言う。

「貴方様はどなた様でございましょうか」と主人が丁寧に尋ねると、

「僕は鮭の大助と言う者だが、毎年秋から冬に掛けて多くの

仲間が今泉川(氣仙川)を登るのだが竹駒川に上の途中の今泉川で『川留め』のために、それから先に上ることが出来ない。せめて十月二十日の夜だけでも少しで良いから『開けて』貰う訳にはゆかないだろうか、」と言う。

「そのような事でしたら、留めを開けて貰うようにしましょう」と約束した。

「必ず守って頂けるのでしたら私の背中にお乗りください。」「お乗りになりましたら目を瞑って下さい。」「竹駒の川岸に着きましたらお知らせします。」と言う。

そう云うと「白髪の老人」は「大きな鮭の姿」になった。

言われるままに鮭の背中に乗り、目を閉じると静かに泳ぎだした。それから何時間、或は何日が経つのであろうか、気が付いた時には竹駒川の自宅近くの川岸に着いていた、と言う。(次号へ)

センバツに花巻東！

第81回選抜高校野球大会に花巻東高が一般選考で初めて代表校に選ばれた。岩手県からの選出は2年連続。昨秋の東北大会で準優勝した一関学院は東北地区補欠校になった。花巻東は最速149キロを誇る左腕の菊池雄星(2年)を擁し、堅守と機動力を生かした総合力の高さが持ち味のチーム。大会は3月21日から12日間、甲子園球場で行われるが、組み合わせ抽選会は、3月13日(金)。試合日を新聞等でチェックして応援に集まって下さい。試合当日は、試合開始1時間前から、甲子園球場前の阪神高速道路下で、入場券を配布します。事務局が県人会の旗を持って待機しています。多くの皆さんの応援を期待しています。

盛岡工、2回戦進出ならず=高校ラグビー

第88回全国高校ラグビー大会は、12月27日花園ラグビー場で1回戦が行われ、3年連続34度目の出場を果たした岩手県代表盛岡工業は、報徳学園(兵庫)に26対41で敗れ、2回戦進出はならなかった。盛岡工は試合開始5分に先制トライを上げ、幸先の良いスタートを切ったが、その後ディフェンスの穴をつかれ、4トライを奪われた。後半フォワードの頑張りで互角に試合を進めたものの、前半のビハインドを取り返すまでには至らなかった。試合に先立って、当会は12月26日、堺会長以下役員が高津高校グラウンドで練習中の盛工ラグビー部を訪れ、花園出場記念トロフィーと金1封を贈り激励した。

編集部

吉本新喜劇の舞台に立つ！

県大阪事務所吉田さん

県大阪事務所主査の吉田真二さん(花巻市石鳥谷町出身)が、1月28日夜、大阪市中央区のなんばグランド花月で吉本新喜劇「大阪六地下街物語」の舞台に立った。演劇好きの吉田さんは出演者募集のキャンペーンに応募し、「出演権」を獲得。東北弁で堂々と役を演じ、お笑いの街に岩手をアピールした。昨年4月に着任した吉田さんは地下街で出演者募集のチラシを見つけ「せっかく大阪に来たから」と応募を決意。書類審査、面接を通して約300人から選ばれた。



台本を手に抱負を語る
吉田さん

今回の上演は「大阪六地下街

物語」の第2弾「一杯のうどんに千の教え」。地下街に点在する1軒のうどん店を舞台に、結婚をめぐる父と娘のやりとりをコミカルに描いた。吉田さんの役は、ミスター・オクレが扮する吉本物産社長の第2秘書。第1秘書は池乃めだかで、大御所2人に挟まれながらも、気後れすることなく演じきった。舞台では、せりふとアドリブが各2回あり出演時間は約15分。アドリブのシーンで、頭に岩手牛のぬいぐるみ付けて「岩手のベゴはうめえぞ。ベゴ食いさ、岩手さ行ぐべ」などと方言でPRし、会場の笑いを誘った。職場で企業誘致や観光振興などに取り組む吉田さんは「大阪では岩手の知名度が低い。芝居で学んだ『ボケ』と『つっこみ』を生かし、東北弁で岩手をPRしたい」と意気込んでいる。

—岩手日報 WebNews から—

事務局掲示板

役員改選について

現役員は2年の任期を終え、新体制で県人会のお世話をあたることになります。役員会の「役員選考委員会」において、推薦された役員候補について討議し、原案を5月の総会に提案、会員の皆様の了承を得て、新しい体制がスタートすることになります。

事務局からのお願い

県人会の事務局として、いつも皆様と密接に連絡を取れるように心がけておりますが、様々な理由から毎週水曜日(祭日に当たる場合はその前後の日)のみ事務所をオープンしております。直通電話でお話もできますし、梅田までお出かけの折にはお気軽に立ち寄りいただきますようお願い致します。なお、水曜日以外はファックスと留守電が利用できます。Eメールもご活用下さい(k7iwatek@w8.dion.ne.jp)

それから、お願いがあります。会員の皆様が参加される新年会、総会等の行事に際しては、はがきで参加・不参加の確認をしておりますが、最近のはがきの回収率は約50%です。参加・不参加を問わず、必ずご返事をいただきますようよろしくお願い致します。

立春が過ぎて梅の花も咲き始めました。会員の皆様におかれましては楽しい春を迎えられますよう祈念申し上げます。

編集後記

冬の季節、ふるさと岩手の厳しい冬をことさら思い浮かべる。そしてそれ故にやがて訪れるあの匂い立つ春の芳しさを…減多に雪を見ることがない大阪でちらつく雪を見ると、何故かホッと気持ちが安らぐ。自然の厳しさを受け止め、共存してきたDNAのせいだろうか？故郷の友人に叱られそうだが、ゆるやかに舞い落ちる雪を顔に受けて歩いてみたい・・・思うのは編集子だけだろうか

(龍)